

森林の役割を学び

水環境への関心を育む

'13 七滝「水の森」植樹事業

町の大切な水資源を育む水源涵養林の保全と森林の役割を知ってもらうため、7月2日、六郷東根にある七滝山の中腹で町内全小学校の4年生とその保護者、町議員、町と連携協定を結んでいる社団法人東京生薬協会と日本航空株式会社の関係者など約220人が参加し、ブナの苗木200本とホオノキ20本の植樹が行われました。

町

ふれあいセンターで行われた開会式では、松田町長が「酸素を作っているのが木。そしてきれいな水を作っているのは山々の森林。植樹を通じて自分の生活を支える木の存在を感じてほしい」と、期待を込めました。

続いて、秋田県七滝土地改良区の藤岡義博のりひろ事務長が「森林のはたらき」と題して学習会を開催。「土砂が流れ出るのを防ぐ」「水を蓄える」「二酸化炭素を吸収する」などの役割を説明し、子どもたちに森林の大切さを訴えました。

植樹会場に到着した子どもたちは、始めに、昨年度に植樹した苗木付近に固形肥料をハンマーで打ち込む「育樹作業」を行いました。その後で森林組合職員から植樹方法の説明を受けてから、参加者全員が苗木を手に取り植樹を開始。山の斜面にスコップで穴を掘り、いたわるように苗木を入れて、根付きを良くするために炭の粉を混ぜ合わせた土を丁寧にかぶせました。

参加した子どもたちからは「こんなに小さな木でもいろんな働きがあることに驚いた」「早く大きくなつて美郷の水を守ってほしい」などの感想が聞かれました。

最後に、後松教育長の掛け声に合わせて、参加者全員で「育てブナの木」と呼び掛け、苗木の成長を願いました。

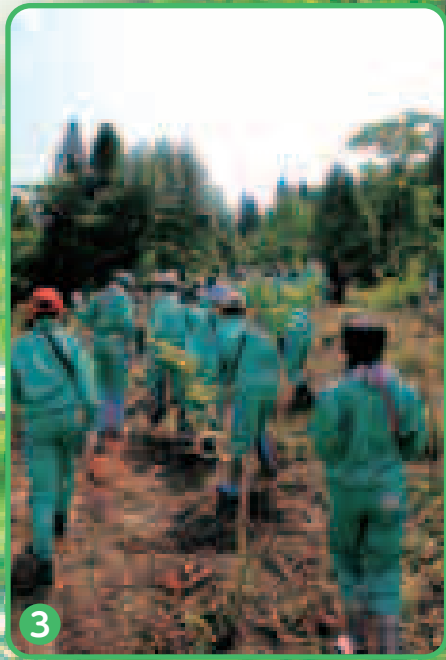




1



2



3



4

①学習会で森と水の関係性について説明する藤岡事務長と、熱心に聞き入る子どもたち。②植樹会場へ向かう参加者。④会場には秋田県水と緑のマスコット「森っち」も応援にかけつけました。⑤昨年度に植樹し、成長した苗木。⑥植樹事業には「秋田県水と緑の森づくり税」を活用しています。⑦⑧森林組合の職員から植樹方法の説明を受け、植樹を行う参加者。



5



6



7



8

町と連携協定を結ぶ社団法人東京生薬協会と 日本航空株式会社も植樹事業に参加

植樹事業には同協会会員13名と同社社員9名も参加。同協会と町は生薬原料の栽培等についての連携協定を、同社と町は地域活性化や環境保全活動等についての連携協定を締結しています。

今回植樹したホオノキは、同協会から寄贈された薬樹です。同協会の藤井隆太会長は「生薬原料を育てるには自然環境が大切。美郷の自然を体感できてとても

いい経験になった」と話してくれました。

また、美郷町出身でもある同社秋田支店の天川谷茂支店長は「将来世代のためにも、美郷のきれいな水環境を残したいという想いで植樹に参加した。これからも連携事業などを通じて環境保全に取り組んでいきたい」と力を込めました。



植樹を行う東京生薬協会の会員



植樹を行う日本航空の社員